

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	特別支援教育課長 三島 賢隆	電話番号	0852-22-5420
----------	----------------	------	--------------

事務事業の名称	特別支援学校職業教育・就学支援事業		
目的	(1) 対象	就労を希望する高等部（専攻科を含む）の生徒	
	(2) 意図	生徒の実態や希望に応じた一般就労の実現を図る	
事業概要	社会情勢の変化や、障がいの多様化に応じた進路指導の充実、職業教育、進路先開拓、卒後の支援等を行う。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	就労希望生徒の就労割合	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
式・定義	就労を希望する生徒のうち実際に就労した生徒の割合		実績値	100.00	100.00	100.00	93.20		%
			達成率		100.00	100.00	93.20		%
指標名	年度		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
			目標値	0.00	0.00				
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00		%	
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	12,014	11,806
うち一般財源(千円)	12,014	11,806

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

一般事業所に就労した卒業生は、H23：52人、H24：62人、H25：46人、H26：55人である。県では関係機関との協議会を年2回開催し、連携・情報共有を図るとともに、各地域において進路指導地域懇談会を開催し、福祉サービスの研修会や関係機関との連絡会などを行った。また、各学校において積極的に進路先や実習先の確保に努めているが、H26年度から知的特別支援学校6校に進路指導教員代替の非常勤講師を配置し、より一層の充実を図った。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・進路指導教員代替の講師を配置したことで、進路開拓や関係機関との連携に係る時間を確保することができた。
また、保護者の対応や卒業後のアフターケアは、時間の確保により丁寧な対応ができ、緊急時にも迅速な対応ができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・現場実習先、就労先の確保の困難

②困っている状況が発生している「原因」

・生徒数増加に伴う、現場実習先や就労先数が不足
・生徒の障がいの重度・重複化及び多様化による、新たな職場開拓が必要

③原因を解消するための「課題」

・現場実習先、就労先の拡充
・現場実習先、就労先等の職場開拓等に必要な時間の確保

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・職場開拓の方法や関係機関との連携の充実
・知的障がい特別支援学校の進路指導教員代替講師配置の継続

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）